

藤沢市交通マスタープラン策定協議会 第2回協議会 議事要旨

- 日 時 : 平成25年3月25日(月) 9:30~11:30
- 場 所 : 藤沢市保健所・南保健センター 3F 研修室
- 出席者 : 委員27名(五十音順・敬称略・下線は代理出席)

<u>池田厚二郎</u>	市古 元臣	伊藤 喜彦	<u>榎本 考暁</u>
岡村 敏之	<u>尾上 佑介</u>	加藤 正美	金子 健治
川村 聖	岸井 隆幸	<u>木下 幸夫</u>	<u>黒田 聡</u>
<u>斉藤 勇</u>	三枝 薫	鈴木 隆夫	<u>清野 尚</u>
高橋 忠雄	高橋 信之	綱島 真人	原 博文
<u>樋口 雅浩</u>	三木 健明	村木 薫	<u>森 勝彦</u>
矢後 勇	山田 護	山田 正文	

- 次 第 :
 1. 開会
 2. 議事
 - (1) 藤沢市を取り巻く状況と想定される交通課題について
 - (2) 藤沢市の将来の交通像について
 - (3) 将来の交通像を実現するための基本方針について
 3. その他

- 配付資料 :
 - ・次第
 - ・委員名簿
 - ・出席者名簿
 - ・座席表
 - ・第1回藤沢市交通マスタープラン策定協議会 ~意見と対応~
 - ・第2回藤沢市交通マスタープラン策定協議会 討議資料
 - ・ふじさわ都市計画2012(リーフレット)

- 傍聴者 : 1名

1. 議事

■ 討議資料

【事務局】資料説明

【会長】

- ・ 改めて今日の会議の位置付けを確認する。
- ・ P1のスケジュールにあるように、本日は第2回で、5月31日に第3回を予定している。その第3回を終えた後、他の会議との意見交換や関係各課への意見照会を行うことになっているため、次回である程度の骨格を作りたいというシナリオになっている。
- ・ P2の将来的な交通像や各地域の基本方針については、第3回までにまとめ

ておいて、第4回以降は、具体的な交通施策について議論していきたいということである。

- ・したがって、今回と次回で各地区の交通の方針が整理できるように、進めていきたいと考えている。
- ・そのような前提で、今日の資料を見ていただくと、P3～P26までに現状と課題の整理を行っている。この全体の課題を認識した上で、どういう将来像を描くのかといったことがP27以降に記載されている。
- ・まずは、P26までの課題整理について、皆様方の視点から、現況を捉える上での質問や不足しているデータ等があれば伺いたい。

■ 藤沢市を取り巻く状況と想定される交通課題について

【A委員】

- ・大変立派な資料をいただいた。しかしながら、第1回の資料を用いるのかと思ひ、それを読んでいた。新たな資料は事前に送っていただきたい。
- ・藤沢市を取り巻く状況と想定される交通課題として整理されている部分は、現在のデータに基づくものばかりである印象がある。もっと将来的に、今後どうなるのかということ踏まえ、目標年の2030年に向けた検討が必要ではないか。高齢者の増加など、一部検討している部分はあるが、将来の話がもう少し欲しい。
- ・交通については必ずしも13地区に分類して検討する必要はないと思っているので、新たな切り口は良いと思う。
- ・ただし、地域を分ける際には、位置的なものだけでなく、モーダルシフトや環境、安全、災害など、色々な視点があるはずである。特に、今回の資料の中では、前回までに整理されていた防災や交通安全などの視点が抜けてしまっていると感じる。安全性の議論なくして、交通は語れないと思うので、もっと重視すべきである。
- ・また、ターミナル整備の視点も必要である。交通問題は点と線で考えるべきであり、家や職場などの点を結ぶ交通手段について、モーダルシフトを含めて検討すべきである。例えば、駅周辺が混雑していることへの対応として、駅周辺整備も必要だと思うが、モーダルシフトの視点も重要であり、もっと自動車以外の交通手段への転換を促すべきではないか。また、バスの運行頻度を増やすことや、生活に必要な交通手段となる自転車について、もっと考えなくてはならないだろう。

【会長】

- ・1つの意見ごとに事務局が回答していると時間がかかってしまうので、まずは一通り意見を聞いていきたい。その後まとめて事務局に回答してもらうようにする。

【B委員】

- ・ 従来通り、13地区の単位で分析すると思いき、前回の資料を見て今回に臨んだ訳だが、本日急に7地域で進めるという案が示された。新たな地域区分としたことにより、かえって総花的になり、具体的にどのように展開していくかが掴みにくくなった印象である。そのため、すぐにこの資料に合わせた意見を求められても少し考え込んでしまう。

【C委員】

- ・ P21に市民意識調査に基づく重要度と満足度の関係が示されているが、鉄道関係の項目がない理由は何か。鉄道についても調査しているのか。
- ・ また、6,500人の無作為抽出とあるが、地域間のバランスは均一に保たれているのか。特定の偏りがあるのであれば、見方が変わってくる。
- ・ アンケート結果について、市全域や各地域で活かせるという判断ができれば、それらへの対応について考えていきたい。

【事務局】

- ・ P22に鉄道サービスに関する調査結果を記載しているが、切り口が合わず、P21の重要度と満足度の関係にうまく反映できなかった。アンケートの調査結果については、再度確認したい。

【会長】

- ・ 地区別に集計することは可能か。

【事務局】

- ・ 13地区に区分し、無作為抽出により6,500人を対象にして調査を行っているので、地区別の集計は可能である。

【D委員】

- ・ P21のアンケート調査は平成23年の単独調査か。もし過去にも同様の調査を行っているのであれば、経年変化を分析することができないか。

【事務局】

- ・ アンケート調査は、平成20年の東京都市圏パーソントリップ調査に合わせて、市が単独で行った調査であり、それ以前に同様の調査を行ったことはない。
- ・ 過去に行った交通に関する意識調査など、参考資料がないか確認したい。

【会長】

- ・ 現状と課題について、将来に向けた検討、安全・防災、モーダルシフト、地域区分、アンケート調査の分析に関する意見が出たので、事務局はこれらについて検討をお願いしたい。
- ・ また、交通事故や交通渋滞など、後半の整理の中に出てくるような指標については、前段のデータ整理にも含めてもらいたい。

■ 藤沢市の将来の交通像と基本方針について

【会長】

- ・ 次に、交通の目標像や基本方針、7地域に分類することの妥当性等について意見をいただきたい。

【A委員】

- ・ 都市マスタープランは13地区で分類しているが、こだわる必要はないだろう。
- ・ むしろ、もっと特色のある分類でも良いかもしれない。

【B委員】

- ・ 従来は13地区で検討してきたため、7地域にするのであれば、特徴などを具体的に分かりやすくしてほしい。
- ・ 前回の資料において、坂道が多いなどの具体的な状況が地区ごとに整理されていたように、地形条件も含めて、各地域の特色を整理すべきではないか。

【会長】

- ・ 同じ地域の中でも地形などに差があるということも含めて整理できると良い。

【E委員】

- ・ 渋滞状況やバスの本数など、地域ごとにより状況は異なるだろう。それぞれの地域で交通サービスとして何が不足しているか洗い出し、今現在、不便な状況や危険な状況を改善していくことを検討すべきではないか。
- ・ GPS搭載のバスにより、所要時間などのデータを取得することが可能であり、また車種別交通量のデータなどもあるので、必要に応じて提供できる可能性はある。それらを用いて、各地域で困っていることの実態を確認する必要があるのではないか。

【会長】

- ・ 交通事業者からデータを提供していただき、様々なデータを確認することで、ダイヤからの遅れ状況なども確認できると良い。また、特別に混雑するような日もあるため、日変動なども考慮し、どのような対応を取っていくか検討する必要がある。

【会長】

- ・ 交通の目標像は3つの柱（モビリティの確保、地球環境負荷の低減、移動の安全性の確保）に分かれているがこれについてはどうか。

【副会長】

- ・ 資料構成の話になるが、4章までの整理で、今後どのようにしたいのかということが分かるようにできると良い。P28に記載された将来の交通像は、抽象的に感じるため、5章に記載している内容を4章に含めた方が分かりやすいのではないか。

【会長】

- ・ P 2 7～P 3 6 の交通の目標像と基本方針までは一体であるように感じる。
- ・ 基本方針については、言葉で表現されているが、イメージを共有化することは難しいかもしれない。踏み込んだ議論が必要なところで、どの辺のレベルを目指すのか分かるようにした方が良い。

■ 7地域の取り組み方針について

【会長】

- ・ 7地域に分類すること自体には、反対は無さそうなので、各地域に関する問題認識と交通施策について意見をいただきたい。

【F委員】

- ・ 交通は1日中問題が起きているわけではなく、通勤や私事など、人によってピークとなる時間が異なることも考慮すべきではないか。
- ・ P 5 1, P 5 2 の片瀬・江の島周辺地域は、居住者の視点は踏まえられているが、観光の視点が足りないように感じる。
- ・ 地域ごとの各交通手段の利用状況について、積極的に利用している手段と止むを得ず利用している手段が分かれば、取り組み方針が分かりやすくなるのではないか。

【会長】

- ・ 観光交通は、連休など特別に混雑する時期もあるため、それらにどう対応するか。例えば、3連休の1日目の交通はどうしても多くなる。また、鎌倉が世界遺産に登録されれば、江の島にも人が集まることが考えられ、その全てに対応するのは難しいかもしれない。それでも、普段の土日は地域住民に迷惑をかけないよう、円滑に移動できるようにする取り組みが必要である。
- ・ 観光関係のデータを補強し、方向性を明確にする必要があるだろう。

【C委員】

- ・ 地域の取り組み方針のイメージについて、藤沢駅、辻堂駅、湘南台駅周辺地域が同じになっているが、実際は異なるのではないか。藤沢駅は交通結節点、辻堂駅は新たな商業拠点があり、違いを出すべきである。

【会長】

- ・ それぞれ違いはあると考えられるが、時間がなかったということであろう。今後の資料では、それらの違いも表現して欲しい。

【G委員】

- ・ 具体的な取り組み方針は、2030年を想定し、それまでに展開するハード整備を中心に整理されている印象であるが、ソフト施策も含めて整理すべきではないか。

- ・ また、今、着手しているものだけでなく、今後取り組むべきことも整理すべきであると思うが、今回の資料中の取組み方針やイメージ図からは、今後取り組む予定の施策イメージが湧かない。

【会長】

- ・ 対象としているものが、短期的、ハード的なものが中心になっているように見えるということだろう。
- ・ 課題を解決していくための取組みに至るプロセスが見えないので、次回の施策のところでは、その部分の検討も必要になるだろう。

【H委員】

- ・ P 5 2 の片瀬・江の島周辺地域の具体的な取組みとして湘南江の島魅力アッププランが挙げられているが、この地域は住宅地もあるため、自転車の通行などでの問題もあり、環境面の取組みについても検討すべきではないかと感じる。
- ・ 地域の境界線が柳小路と鵜沼の間に引かれているが、境川を境界とする方が自然ではないか。

【会長】

- ・ 片瀬・江の島周辺地域の中に辻堂団地も含まれているのではないかと。高齢化率が高くなっている要因になっている気がする。
- ・ また、観光と住宅での取組みの違いを考慮するなど、地区の切り方について再考した方が良いかもしれない。

【I委員】

- ・ トンネル事故があったことなどにより、道路などの整備の必要性に関する意識は高まっていると言える。優先順位を決めて、整備すべきものは整備していく必要があるだろう。
- ・ 一方で、新南北軸の話も出ているが、これは採算性の問題で見送られた経緯がある。その判断は正解だったと思う。
- ・ 交通マスタープランでは、夢を振りまく必要はないと思うので、効率的にお金を使うことを示した方が良いだろう。

【会長】

- ・ 取組み施策については、これから暮らしが変わっていくことに対応したモーダルシフトやこれまで造ってきたものを更新していくアセットマネジメントを含めて検討する必要がある。

【J委員】

- ・ 産業の森構想は今後開発が進み、さがみ縦貫道路など国や県の計画もあり、相鉄いずみ野線の延伸によるまちづくりの検討も進められているため、駅周辺のまちづくり計画を含め、長期的な視点に立った検討が必要ではないか。

【事務局】

- ・ ご指摘の点を参考にし、新産業の森や健康と文化の森の具体イメージを持ちつつ、交通マスタープランを策定していきたい。

【B委員】

- ・ 前回の資料では、坂道が多いことや歩道が狭いことなどを含めた善行地区の現実問題が見えていたので、具体的な取組みも考えることができたが、今回の資料にはその辺が抜けてしまっているように感じる。
- ・ 今回の資料では、小田急線の鉄道駅を中心とした地域に分類されているが、その結果、道路に関する詳細な情報などが抜けてしまっているのではないかと。

【K委員】

- ・ 藤沢駅周辺地区はバスも充実し、満足度は高いかもしれない。
- ・ しかしながら、昔は南仲通が最も栄えていたが、今は海岸の方が栄えているように、2030年頃にどのような形になるのか考えておく必要がある。
- ・ 高齢化によって廃墟になるかもしれない中で、余計なお金は使えないし、商業等の中心地が動くことを想定し、それに対応した道路整備などを含めた交通マスタープランを策定すべきだろう。
- ・ 根岸線が大船止まりで、藤沢まで引き込めなかったことなどを考えても、将来を見据えた駅周辺の計画が必要であると思う。

【会長】

- ・ 現在、藤沢駅前がデッキでつながれているが、そのまま使うべきかどうか。補修なども考える必要がある。高齢化などを考える際に、藤沢駅周辺は他とは異なる課題が出てくるのではないかと。

【L委員】

- ・ 7地域の課題と取組み方針はこれでいいのか。地域概要は示されているが、人口や地形などのデータと課題との関係が見えず、一般的な施策が記載されている印象である。地域の特性を踏まえた取組み方針が必要ではないかと。

【会長】

- ・ 市からも説明があったように、今回の地域別の取組み方針については、前倒しで示されたものであり、次回も含めてまとめるものである。

【M委員】

- ・ 現状と課題が合っているのか疑問である。例えば、P34の基本方針に基づき藤沢駅周辺地域は最適な交通サービスが提供されているのか。基本方針に沿って何が足りないのかを把握することで課題が明らかになる。
- ・ 例えば、駅まで10分で着くようにするとした場合、その地域内でどのような取組みが必要になるか明らかになるのではないかと。

【N委員】

- ・ 地域別の検討は、もっと掘り下げた方が良いと思う。例えば、湘南台駅周辺

地域においてはサブ交通としてコミュニティバスやコミュニティサイクルの社会実験などを行い、導入の可能性を試してみることが考えても良いのではないか。

【会長】

- ・ 地域別の取組みについては、今後、短中長期、ハードとソフトの視点からの検討も必要である。

【副会長】

- ・ 地域別の取組みについては、具体的な落とし込みが必要である。全体の7割程度は地域別の検討で書くことができるだろう。ただし、残りの3割程度は、マスタープランがないと全体としての方向性が見えなくなってしまうものがある。
- ・ 個別計画において落ちてしまうといけないものが全体方針で浮かび上がるようにすることが重要であり、それができれば、マスタープランがあつて良かったとなる。

【会長】

- ・ 人口配置を見ると、JR東海道線沿線に市全体の半数程度の約20万人が住み、その他は地域ごとに約3万人ずつ住んでいるイメージである。駅を中心とした3万人くらいのコミュニティが形成されているという考え方であろう。その中で、鉄道駅がない地域などは、どのように移動しているのか、移動させたいのかが見えてこない。
- ・ 交通基盤と立地施設の関係を決めて、地区別に整理していく必要があるだろう。
- ・ 高齢化が進み、移動が困難となる地形は制約条件になるため、地域特性の共通部分との違いを踏まえながら、課題の鮮明化、対策の明確化をすべきではないか。
- ・ 第3回協議会では、地域別課題の精査とそれに基づく方針、具体の施策について議論できるようにした。
- ・ それでは、本日の協議会を踏まえ、市としての総括をお願いします。

【事務局】

- ・ 本日の協議会では、第3回に議論を予定していた地域別の取組み方針を前倒しで示させていただいた。
- ・ また、都市マスタープランは13地区区分であったが、その整合は図りつつも、交通マスタープランでは、交通の実態に即しながら7地域に区分し、その方向性で進めさせていただきたいと考えている。
- ・ 本日の意見を踏まえ、身近な視点も考慮しながら、実態を明確にし、地域に応じた取組み方針の再整理、交通マスタープランとしての今後の方向性等について検討を深めていきたい。

2.その他

【事務局】

- ・ 次回は、5月31日（金）の13：30から、会場は市民会館での開催を予定している。
- ・ 本日の討議資料と議事要旨については、今後、委員のみなさんにご確認いただき、その後公開する予定である。

以上